

SMR
リニア新幹線

この価値は、次の時代に向けた競争力に！
「地域性を大切にすること」が競争力になる時代
消費者の価値観の変化 (ex. エシカル消費)
投資家の価値観の変化 (ex. ESG投資)

地方の活性化にどう活かすか？

- 観光収入を地域でまわす仕組みをつくることで**経済効果**を何倍にもする。
※材料、加工、販売を地域内で。
- その際、「**良い循環**」が生まれる**仕組み**をつくることで、経済、環境、社会がともよくなることを期待できる。
※農業、環境、観光の総合的な発展

【目指すべき方向性】
多様性、地方毎の個性、Quality of Lifeを重視する**価値観**
(これが地方に人を引き寄せる力になる。)

多様性、地方毎の個性とは？ 新たに作るのではなく、地域の環境、気候、文化等と密接に結び付いた産業、暮らし方、その表象としての景観
→**持続可能な暮らし、持続可能な発展**

多様性や地方の個性を生み出す政策
(価値観は政策によって創出できる)

中山間地域の魅力を引き出すために
(農村、食糧分野)

世界的な認識
大量生産・大量消費のための農業が地域の均質化や環境負荷の増大、中山間地域の過疎化につながっている

例) ・品種の減少と土地との乖離
流通しやすい均質になるように調整された品種が台頭し、それぞれの土地が育んできた「伝統種」と呼ばれるような品種が消滅してきている。
→生物多様性の減少のみならず、調整された品種に栽培環境を合わせるため、ハウス栽培などが増え、環境負荷の増大や地域ならではの風景の消滅といった問題もある
・単一栽培や機械化
効率化のために単一栽培を行い、機械化を促進。
(農地を「生産の場」としてしかとらえない)
→生物多様性の減少、CO2排出の増大

▶ **規模の農業から小農への回帰**
農村環境は、生産、流通、消費を包括的に検討

実現するための政策 (方向性)
土地とのつながりを担保する仕組みの構築

(具体例)
生産：土地に根差した農産物生産を誘導 (認証制度、補助)
流通・消費：学校給食やふるさと納税の返礼品等に上記の農産物を採用するなど、公共調達からはじめる
観光：上記の農産物を提供するなど土地とのつながりを重視した宿の認証 等

【参考】
EUの共通農業政策 (CAP)
1985年に環境破壊の要因の一つに共通農業政策があることを認め、約20年かけて制度改革
→**持続可能性、生物多様性などを重視**

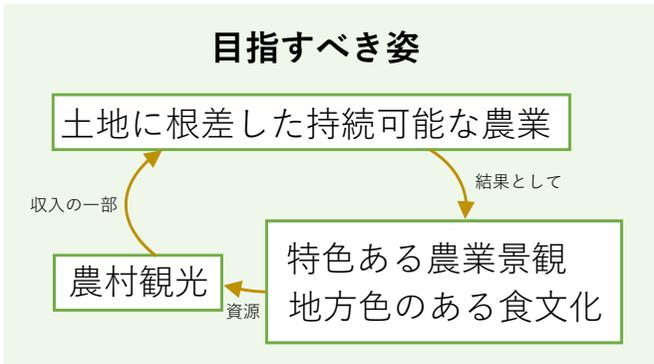
第一の柱 農産物の生産
第二の柱 農村発展

直接支払に環境要件
グリーンング支払い
環境支払い
Ex.作物の多様化
伝統種の栽培
環境用地の設置
(段畑の石垣なども)

補助金を受けるプロジェクトに
環境要件を賦課

EUのFarm to Fork Strategy (2020)
生産から流通までを含めた持続可能なフードシステムの構築を目指す戦略。
EU圏内に限らず、輸出入にも適用予定。
→商品の売り方、価値づけ方などにも言及。
欧州の観光客の価値観が変わる可能性大。

イタリアのアグリツーリズム法
農村の宿に対し、土地に根差した食、建物であること、生産過程や農地を見学可能にすることを規定した法律。
観光は農業の補助的位置づけ。



▲ばらばらな政策から統合的な政策へ

現状	農業	農産物	景観	観光
	↓	↓	↓	↓
	効率化	ブランド化	文化財	交流、集客

※規模の勝負下では中山間地域は「条件不利地」に現在の「条件不利」は土地条件ではなく、効率化を求めた社会における位置づけ

※これらを結び付ける根本となる理念がない
※農業と土地の結びつきを無視しているの、すべてが表層的、上滑りな状態